

# サイレンススズカ

38,156票



1998年 宝塚記念 (GI)

## 空の彼方まで逃げた快足馬

3歳時のサイレンススズカは、まだその底知れぬ能力を持って余していた。新馬戦を圧勝し、プリンシパルSを制したが、弥生賞や日本ダービーは大敗した。神戸新聞杯は2着に粘ったが、天皇賞(秋)、マイルチャンピオンシップ、香港国際Cのいずれも好走は叶わなかった。

しかし4歳となった1998年、サイレンススズカは一気に頂点への階段を駆け上がった。バレンタインS、中山記念、小倉大賞典といずれも逃げ切って連勝。金鯱賞ではハイペースの大逃げから直線も独走し、2着に1秒8差という衝撃の圧勝劇を演じた。勝ちタイムはコースレコード。平地重賞の「大差」勝ちは、中央競馬ではこれを最後に出していない。

そして迎えた宝塚記念。連勝中の武豊騎手から南井克巳騎手へと手綱の代わったサイレンススズカは、大人の走りを見せた。ゲートを出るとじわりと先頭に立ち、徐々に離していきながらマイペースでレースを引っ張っていく。直線でも他馬の攻撃を受け止めるように、坂を

上がってからもうひと伸び。4コーナー2番手から懸命に追うステイゴールドを振り切り、年度代表馬エアグルーヴも、牝馬二冠馬メジロベルも、前年の有馬記念馬シルクジャスティスも、天皇賞馬メジロライトも下して先頭でゴールを駆け抜けた。破竹の5連勝、待望のGI初制覇の瞬間だった。

そしてサイレンススズカにとって、これが最後のGI勝ちとなった。

秋初戦の毎日王冠は、1歳下のエルコンドルパサーとグラスワンダーを相手に影をも踏ませぬ逃げ切りで完勝。続く天皇賞(秋)も圧倒的1番人気に支持され、ハイペースで逃げる。付いてこられる馬は1頭もない。このまま金鯱賞の再現かと思われた4コーナー手前、サイレンススズカは突然、スピードを緩めて競走を中止した。左前脚の粉碎骨折で、すぐに予後不良の診断が下される。稀代の快足馬は、永遠にターフを去った。

### 第39回 宝塚記念 (GI)

1998年7月12日 阪神競馬場 2200m(芝・右) 晴・良 13頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/差	人気	通過順位
1	サイレンススズカ	牡4	58	南井 克巳	橋田 満	2:11.9	①	11111
2	ステイゴールド	牡4	58	熊沢 重文	池江 泰郎	3/4	⑨	8862
3	エアグルーヴ	牝5	56	武 豊	伊藤 雄二	クビ	③	6687
4	ゴーイングスズカ	牡5	58	芹沢 純一	橋田 満	1 3/4	⑩	4455
5	メジロドーベル	牝4	56	吉田 豊	大久保洋吉	クビ	⑥	2222

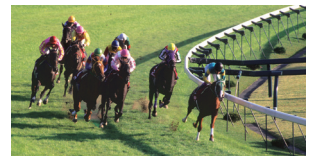
### サイレンススズカ Silence Suzuka

1994年5月1日生 牡 栗毛

父:サンデーサイレンス 母:ワキア 母の父: Miswaki  
 生産:平取・稲原牧場 馬主:永井啓式氏  
 通算成績:16戦9勝(うち海外1戦0勝)

#### 主な勝ち鞍

1998年 宝塚記念(GI)、毎日王冠(GII)、  
 金鯱賞(GII)、中山記念(GII)、  
 小倉大賞典(GIII)



1998年毎日王冠(GII)



# メモリアルヒーローファン投票結果

2023年に行った70周年メモリアルヒーローファン投票、本競走の結果は以下の通りです。  
1位:サイレンススズカ(38,156票)

2<sup>位</sup> クロノジェネシス 29,493票



2021年の本競走をファン投票1位、単勝1番人気で制した。粘る先行馬を直線で一蹴しての勝利。クロノジェネシスは前年の2020年も制している。

3<sup>位</sup> ゴールドシップ 25,490票



ファン投票1位、単勝1番人気で出走した2014年の本競走で、スタートこそ遅れたものの3馬身差の圧勝を飾った。前年の2013年も制しており宝塚記念史上初の連覇馬。

4<sup>位</sup> オルフェーヴル 12,025票



2012年の優勝馬。1番人気で11着に沈んだ前走・天皇賞(春)の鬱憤を晴らすかのような末脚で、他馬を一蹴。2着馬に2馬身差をつける走りでファン投票1位、単勝1番人気に応えた。

5<sup>位</sup> ディープインパクト 10,347票



2006年の優勝馬。ファン投票1位、単勝支持率はレース史上最高の75.2% (単勝オッズ1.1倍)という圧倒的な人気を受けての勝利であった。2着馬との着差は4馬身。



特設サイト